



インドネシア

5 ウォノレジョ多目的ダム建設事業(1)(2)

A
B
C
D

ジャワ島東部のトゥルンアゲン県にダムを建設し、スラバヤ市および周辺地域に生活・工業用水の原水を供給し、洪水被害の軽減および電力供給の充実を図り、もって地域経済の発展並びに生活の向上に寄与する。

承諾額/実行額 184億6,900万円/172億4,700万円
 借款契約調印 1993年11月、1996年12月
 借款契約条件 金利2.6%/2.5%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
 貸付完了 2002年12月、2002年11月
 実施機関 公共事業省水資源総局



外部評価者 岡田 卓也((株)コーエイ総合研究所)
 現地調査 2004年10月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに多目的ダム(有効貯水量1億600万³m:日本の黒四ダムの有効貯水量1億4,900万³m³)、アクセス道路、関連施設(堰、水路、ポンプ施設等)、貯水池住民の移転先インフラの建設・整備等が行われた。通貨危機の影響による政府予算配分の遅れなどにより期間は計画を上回ったが、事業費は計画を下回った。

ダムおよび堰からの原水は、当初計画では乾期渇水時に8m³/秒をスラバヤ都市圏に供給する計画であったが、2002年、03年の2年間平均では5m³/秒と当初計画を下回った。これは、原水不足分の一部が灌漑用水として使用されていること、浄水および配水を担うスラバヤ市水道公社の設備が不足しているためである。

1990年に50%であった同市の水道普及率は、02年には65%に上昇した。受益者調査では、ダム完成後、洪水被害が大幅に軽減し、農作物の収穫安定化を通じて地域経済が活性化したこと、水力発電により夜間の電力供給が安定・充実し、子供の学習や防犯等の

生活の水準が向上したことが判明した。なお、ダム付近の住民の移転に関しては、移転先に道路、学校、保健所、市場等の公共施設が整備されており、住民もおおむね満足している。

運営・管理を担当している水管理公団(ダム関連施設)、ジャワバリ発電会社(水力発電設備)の技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

ダムの水資源は有効活用されているが、十分な水の供給という目的を達成するため、水道公社の浄水能力拡充が望まれる。

第三者意見

本事業は、洪水被害の緩和、ジャワバリ系統の電力供給、スラバヤ市を主とする上水供給に大きく貢献するとともに、周辺耕地へ灌漑用水を供給することで農業生産高の増加が期待できる。

有識者 Mr. Kusumo Martoredjo (民間企業)

インドネシア国立大学学士(経済学)。現在、カツワール・ヤサ会長、インドネシア・日本経済委員会委員長。専門は経済全般・ビジネス。

本事業による効果

本事業でダム、堰等の施設が完成したことにより、スラバヤ市住民(人口約260万人:大阪市人口と同程度)が受ける洪水被害の程度は大きく軽減された。



本事業の受益者

事業実施前後の洪水被害の比較

■ 甚大な被害(被害程度が大きく、復旧困難) ■ 相当の被害(相当の費用/期間にて復旧可能)
 ■ 軽微な被害(自助努力/短期間にて復旧可能) ■ 被害なし

